

展示主旨

和歌山県ゆかりの教育者、青柳昌宏^{あおやなぎまさひろ}（1934～1998）は、一生を通じて自然を観察し、探究し続けたナチュラリストです。日本とニュージーランドの南極地域観測隊に参加し日本で初めてペンギンの生態研究を本格的に行い、ペンギン基金の初代代表を務めた生物学者でした。自然保護教育をライフワークとし、学校教育と社会教育の場で自然保護教育を実践し、日本自然保護協会の自然観察指導員制度を創設したパイオニアでもあります。

東京教育大学（筑波大学）附属盲学校時代には、視覚に障害のある生徒のための生物の授業方法を開発し、その経験から、〈ネイチュア・フィーリング からだの不自由な人たちとの自然観察〉という自然観察の手法を提唱しました。

東京の赤坂で生まれた青柳昌宏は、国民学校4年生の時に、和歌山に縁故疎開しました。豊かな自然の中で少年時代を過ごし、東京教育大学農学部で応用昆虫学を、理学部で動物生態学を学び、和歌山で中学、高校の生物の教師となったのです。

64年足らずの生涯で青柳が残した多くの業績の原点は、豊かな自然がある和歌山での様々な体験にあったといっても過言ではありません。

本展は、和歌山を心から愛し、教育者として、生物学者として、自然保護教育の実践者として爽快に生きた青柳昌宏の軌跡を辿るものです。和歌山ゆかりの人物に、サステイナビリティ、SDGsやダイバーシティ&インクルージョンなど、現代の社会的な関心にもつながる先駆的な活動をしたナチュラリストがいたことを知っていただく機会になることを願っています。